

美咲町町制施行20周年記念式典

町 長 式 辞

本日は、美咲町町制施行20周年記念式典を挙行いたしましたところ、多くの皆さまのご列席をいただき、節目をお祝いできますことは大きな喜びであります。また、衆議院議員 加藤勝信様、岡山県副知事 尾崎祐子様をはじめ、近隣の市町村長など、多数のご来賓の皆さまをお迎えし、式典に華を添えていただきまして心より感謝申し上げます。

本日は、町制施行20周年記念表彰として、地方自治、住民自治、社会福祉、保健衛生、教育などの各分野で、まちの礎を築いていただいた皆様のご功績をたたえるとともに、感謝の意を表し、町からの表彰状を贈らせていただきます。どうぞこれからも健康にご留意され、大所高所からお導きください。

さて、美咲町は、平成17年3月22日、同じ久米郡の中央町、旭町、柵原町の3町が対等合併して誕生しました。古来から人の流れやつながり、文化・風土といったものは、川の流れに沿って築かれてきたものですが、岡山県内合併協議の最終ランナーとして、旧町が曲折を経ながら合併協議を重ねた結果、生活文化圏がそれぞれ異なるまち同士の合併に至りました。

合併前後の当時に思いをはせるとき、節目、節目で先人が最善の道を選択され、新しいまちをつくっていくという気概とたゆまぬ努力で礎を築いていただき、深い感謝の念に堪えません。

20年の歩みを振り返れば、今やたまごかけごはんの聖地として知られ、百数十万人をお迎えした「食堂かめっち。」のオープン、全国女性消防操法大会での女性消防隊の準優勝、大井和西と小山の棚田の「農林水産省つなぐ棚田遺産」指定、中山間地域の公共交通対策の先進的な取組として知られている黄福タクシー制度の導入、岡山ゆかりの桃太郎伝説が書かれた全国で最も古い公文書の発見と全国桃太郎サミットの開催、本日も町長、議長のご出席をいただいています大阪府岬町との友好交流都市協定などがありました。

柵原・北部グラウンド、塚角グラウンド跡地への相次ぐ企業誘致、農業では特産のブドウの出荷額はここ10年で2倍になり、津山地域のブドウ販売額の半数以上を占めるようになりました。

個人の活躍をみましても、U18ソフトボール日本代表としてワールドカップで準優勝した小賀唯美（ゆいみ）さん、洋菓子界のワールドカップといわれる世界最高峰の洋菓子大会で日本代表チームのキャプテンとして優勝し世界一のパティシエとなった鈴鹿成年（なりとし）さん、強豪帝京大学ラグビー部のナンバー8として大学選手権で2年連続優勝に導いた延原秀飛（しゅうと）選手、昨年の紅白歌合戦に出場された女性アイドルグループのメンバーの方や、全国放送の料理番組に多数出演しているアイデア料理研究家のma k oさん、自転車競技BMXの同年代の全国チャンピオンに輝き、オリンピック出場に期待がかかる中央中学校1年の谷本怜雅（りょうが）さん、岡山県で初めて将棋の小学生女子の全国大会で優勝した旭学園6年の土山史織（しおり）さん、岡山県内で最年少の防災士になった柵原学園5年の安東俐哉（りいや）さんら、若者や子どもたちの活躍が相次いでいます。

一方で、合併当時16,500人を数えたまちの人口は現在12,500人で、令和2年度の国勢調査では人口減少率が9.6%と県内ワーストとなりました。全国的に人口減少時代を迎えた中で、さらにその20年、30年先の未来に直面しているのが実情です。

そこで町は、令和2年度に策定した新しいまちの振興計画に、将来を見すえまちのあり方を人のあり方にダウンサイジングさせながら住民の生活はしっかり守り、新たに生み出したヒト・モノ・カネといったリソースを、新しいまちづくりに投資する「賢く収縮するまちづくり」を掲げました。

公共施設の解体・除却・売却・複合化を大胆に進める一方で、地域の絆を強め地域力を高めるため、住民自ら課題を解決し楽しい地域にしていく地域運営組織「小規模多機能自治」の推進を打ち出しました。

令和5年からは、旧町ごとの拠点として、岡山県教育委員会の管轄としては初となる小中一貫9年制の義務教育学校・旭学園、柵原学園の開校、町中心部に行政、産業、学び、福祉といった6つの機能を集めた多世代交流拠点「みさキラリ」、旭地域には西川診療所や子ども第三の居場所など8つの機能を備えた複合施設「あさひなた」を整備しました。

さらに、「こどもの笑顔はみんなの幸せ 子本主義 美咲町」を掲げ、まちを挙げて「こどもの幸せ最優先」のまちづくりを推進しています。令和3年には出生率が「2.23」を記録し、「子育てしやすいまち」といったネットの全国ランキングでは3位や4位にランクされるようになりました。

町内の学校も地域学校協働活動や読書活動で文部科学大臣表彰、ユネスコから防災教育といった分野で学校指定を受けるなど全国レベルの評価を受けており、福祉分野では81自治会のうち69の自治会が「小地域ケア会議」に取り組み、フレイル予防を目的にした住民主体の健康づくりサロン「通いの場」は全町で盛んに開催されています。

この春から町は、ひきこもりや子ども・高齢者をめぐる虐待など複雑な問題がからむ家庭や個人に向き合い、町が包括的に取り組むための「重層的支援体制整備事業」をスタートさせたところです。

昨年春、民間組織「人口戦略会議」が将来的に行政運営が立ちゆかなくなるとして全国4割の市区町村を「消滅可能性自治体」として発表しました。美咲町も前回発表時の平成26年には該当していましたが、今回そこから脱却することができました。

合併以降課題山積だったこのまちにも、ここ2年ほどで国内外から300件を超える視察が殺到し、メディアの取材が相次ぐようになりました。たとえ人は減っても思いは減らさないという町民の底力が広がっています。

何気ない日々の生活の中で見られる支えあいや見守り、強い絆の中で培われてきた人の力こそがこのまちの宝であり財産です。未来を嘆き、ないものねだりをして手をこまねいていても地域の未来は開けません。人口減少や少子高齢化を言いわけにせず、正面から向き合い、ともにつくる「共創」をキーワードにみんなで次の10年へ踏み出しましょう。

この20周年式典を機に、あらためまして先人と町民みなさまに感謝しますとともに、ここに「みさき新時代」の幕開けを宣言して式辞といたします。ありがとうございました。

令和7年11月9日

美咲町長 青野 高陽